

県民教授研修会

8月30日に県民教授研修会が、富山県教育文化会館で開催されました。

藤井秀明自遊塾塾長の挨拶に続き、県民教授の木内静子、黒田太穂、経田博子の3氏が登壇し、講座運営の工夫や方法について講演しました。

その後、新県民教授を囲む6つのグループに分かれ、グループワークを行いました。グループワークでは、講座を活発で楽しいものにするため、リピーターの有無によって次年度の内容を変えるか、テーマを維持しつつ掘り下げ方を工夫すべきかなど、様々な意見の交換が行われました。

この研修は、講座運営の活性化につながる非常に有意義な機会となりました。



研修会の様子

講座紹介

◆発見!!越中国の埋もれた歴史 前篇・後篇 県民教授 明神 博幸

加賀藩や富山藩、そして越中国の歴史を振り返る講座です。

今年気づくと23年目になりました。

講座では、神話から古代・中世、戦国と歴史を追いかけてながら、近世の加賀藩と富山藩の活動に焦点を当てています。現在を生きる人々にとって、歴史から学ぶことはたくさんあります。

準備は大変ですが、講座では時代劇の誤りを修正しつつ、最新の学説を用いて水準を落とさないよう心懸けています。塾生の方々も事前に調べた事を基に質問されるなど、講座は毎回が刺激的です。



講座風景

◆脳いきいきほんわかアート 県民教授 岩城 美保

「今日の風の色はなに色」初めての臨床美術で出会った衝撃的な言葉。日々の小さな変化を自分に呼び込むと新たな発見や気づきがあります。

脳いきいきほんわかアートは、観るのは好きだけど描くのは苦手という方も自然と楽しめ、その人ならではの表現ができるように工夫しています。

そして、生活に喜びと彩りを添え、脳の活性を促します。

アートな空間で、素敵な仲間と出会いませんか。



作品制作中

◆言葉に心きらり ―“書く歓び”を 県民教授 坂田 陽子

人として言葉の中に生きているわたしたち。

その言葉に心きらりと感じる瞬間をもつことができれば、それは生きる力となり、自分の豊かさを創ることになるでしょう。

「言葉に心きらり」

今年度は、“書く歓び”をテーマに、自分の心の動きを、言葉の鏡に映し出す体験をしてもらいました。一人一人が作家になる“歓び”の瞬間がそこにありました。書けないと思い込んでいた自分ではない自分に。



“心きらり”の作品たち